

令和7年度第1回摂津市協働のまちづくり推進委員会 <議事要旨>

開催日時	令和7年7月16日(水)10時00分~12時00分
開催場所	摂津市役所新館7階講堂
案件	1. 委員委嘱式 (1) 委嘱状交付 (2) 市長あいさつ 2. 第1回会議 (1) 委員紹介 (2) 委員長及び副委員長の選出 (3) 協働をめぐる本市の状況について (4) 今後のスケジュールについて (5) その他
出席者	久委員(委員長)、柳瀬委員(副委員長)、久山委員、寺西委員、高雄委員、吉田委員、松田委員、井関委員、末岡委員、北川委員、鈴木委員、中井委員、中田委員、松方委員
欠席者	武友委員
事務局	生活環境部長 吉田、生活環境部副理事兼自治振興課長 川本、自治振興課長代理・市民活動支援係長事務取扱 上地、自治振興課自治振興係長 林田、自治振興課市民活動支援係 緒方
オブザーバー	市長公室副理事兼秘書課長 有場、市長公室副理事兼政策推進課長 古賀、政策推進課長代理 橋本、政策推進課 坂下

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
1. 委員委嘱式 (1) 委嘱状交付 (2) 市長あいさつ	
市長	<p>皆様方には、委員就任を依頼しましたところ、ご快諾いただき、誠にありがとうございます。協働のまちづくりは、これからの摂津市が行う取組の一丁目一番地であると考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>ご承知のとおり、少子高齢化や核家族化が進んでいます。また、摂津市内を見渡しますと、高齢者のみの世帯、あるいは一人暮らしの方も非常に増えています。そういった方々を支えるために、以前は、地域の横のつながりでカバーしてきましたが、残念ながら全国的な流れとしてそのつながりが弱くなってきているところです。こうした中で、深いつながりを作り、皆さんが支え合っていくまちをつくっていくために何が必要なのか、真剣に考えていく時期になっています。</p> <p>このような話をすると、この先の摂津市が暗いといった印象を持たれるかもしれませんが、私はそうは思いません。今の方が、可能性が芽吹き始めていると感じています。一例を申し上げますと、最近始まった取組では、子ども食堂は</p>

	<p>摂津市内で 20 か所展開されています。こうした、公益を目的とする市民公益活動団体にも活発に活動していただいています。これまでは、地縁を中心とした地域のコミュニティが中心でしたが、今後は地縁団体をしっかりと支えながら、市民公益活動団体の活動を活性化し、これからの新しい摂津市、地域のつながりを作っていきたいと考えています。「これが摂津市の将来の姿なんだ」「このまちであれば安心して住み続けられる」と市民に思っただけの取組をしていきたいと考えておりますので、委員の皆さんには、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。</p> <p>摂津市内部の取組としましては、庁内に協働のまちづくり推進本部という会議体を設置しました。委員の皆さんからいただいたご意見をもとに、庁内で協議し、お互いに意思疎通をしていきながら、協働のまちづくり推進計画を策定したいと考えています。今後、長期間にわたりますが、活発な議論をしていただけることを期待しております。</p>
<p>2. 第1回会議 (1) 委員紹介</p>	
<p>事務局より、委員及び事務局の紹介</p>	
<p>(2) 委員長及び副委員長の選出</p>	
事務局	<p>委員長及び副委員長の選出に入らせていただきます。</p> <p>摂津市協働のまちづくり推進委員会規則の第2条第1項において「委員会に、委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。」と規定されております。委員長と副委員長の選出にあたり、自薦・他薦はありますでしょうか。</p>
委員	<p>(「事務局一任」との声あり)</p>
事務局	<p>ただいま、「事務局一任」とのお声がありましたので、事務局から指名させていただきます。</p> <p>委員長には、長年本市の総合計画や協働のまちづくりの推進に携わっていただいております「久委員」にお願いしたいと思ひます。また、副委員長には、近隣市の中間支援組織で協働の推進を実践されている「柳瀬委員」にお願いしたいと思ひますが、皆さんいかがでしょうか。</p>
委員	<p>(「異議なし」との声あり)</p>
事務局	<p>それでは、委員長は久委員、副委員長は柳瀬委員に決定したいと思ひます。委員長就任にあたりまして、久委員長からご挨拶をお願いいたします。</p>

委員長	私は、摂津市だけではなく、関西各地で協働のまちづくりを行政と市民の皆さんと一緒に進めています。協働のまちづくりに関わって 40 年近く経ちますが、まだまだ取組が進んでいないところもありますので、皆さんのお知恵を借りながら進めていきたいと思ひます。
(3) 協働をめぐる本市の状況について	
委員長	それでは、次第に沿って進めさせていただきます。 まず、案件 (3) の「協働をめぐる本市の状況について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料 4 に基づき、説明)
委員長	事務局からの説明にもありましたが、委員の皆さんへのアンケートを踏まえて、次回以降テーマを決めて 1 つ 1 つ十分に時間をかけて議論をしたいと思ひます。本日は、時間の都合もあるため、事務局の話聞いてご質問、あるいは「こういう視点があるんじゃないか」といったご意見をいただきたいと思ひます。
委員	条例第 1 条中に「持続可能で活力ある地域社会の実現を図ることを目的とする。」とありますが、具体的にどのようなことをいい、どこが数値的な到達点なのでしょう。一体何が条例の目的なのか、市民がどういう状況になったらこの条例があつて良かったと言われるのかが分かりません。このような理解ですので、アンケートを実施すると言われても、答えようがありません。
委員長	条例を作るときは、必ず逐条解説でそれぞれの言葉の意義を 1 つずつ定義されていると思ひます。先ほどご指摘があつたように、もう少し分かりやすく言えば何なのかを共有しておかないと、皆が違ふ思いを持ったまま表面上の議論となつてしまい、違ふ方向に進んでしまいます。事務局として、どのように考えて第 1 条の目的を規定したのか説明をお願いします。
事務局	どんな施策や条例であっても、目的の規定を入れます。この条例の趣旨であり、最終の目的は「持続可能で活発に活動する地域社会であればいいな」ということですが、これについての数値的な目標と言われるとなかなか難しいところではあります。
委員長	委員が質問されたことは、データがどうかというわけではなく、「持続可能で活力ある地域社会の実現を図る」という柱で様々な議論をするうえで、その参考になるデータがあるのではないかとということです。ここを共有できていないと、事務局の分析や今後委員で実施するアンケートの項目が妥当か分からないため、市が考えている「持続可能で活力ある地域社会の実現」というのが一体どのよう

<p>委員</p>	<p>なことなのか、お聞かせいただきたいということです。また、「協働」や「協働のまちづくり」についても、ここに集まっている方で全く異なるイメージを持っているかもしれないので、次回は根本的な議論が必要になるのではないかと思います。</p> <p>なぜこの会議が設置されたのか。それぞれの立場でそれぞれの問題があり、それがここにもつながってるんだなという憶測をするのに、ある程度は十分な資料だと思います。全てが右肩下がりで、社会を支えていた様々な団体の組織力が低下していて、その結果、地域活性化の維持が難しくなっています。組織でカバーできるところは良いですが、カバーできない地域も含めた摂津市全体のコミュニティをどう考えていくのかということが、条例制定の発端だと理解しているので、委員の皆さんにこの資料を見ていただいて、色々な考えを巡らせていただいたらと思います。</p> <p>協働のまちづくり推進委員会の位置づけは分かりましたが、計画そのものを作るのは、市の内部組織である協働のまちづくり推進本部であり、我々は参画できないという理解でよろしいですか。もしそうであれば、計画を作る部門やメンバーを確認したいです。</p>
<p>事務局</p>	<p>条例第10条に、協働のまちづくり推進計画の規定があります。第1項に、「市は、協働のまちづくりの推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、協働のまちづくりの推進に関する基本的な計画（以下「協働のまちづくり推進計画という。」）を策定するものとする。」と規定していることから、策定の主体は市となります。ただし、第2項に、「策定しようとするときは、あらかじめ、協働のまちづくり推進委員会の意見を聴かなければならない。」と規定しているため、委員会でのご意見を聴いて策定していきます。今後、皆さんからのご意見をもとに素案を提示させていただきますが、その素案につきましては、庁内に設置している協働のまちづくり推進本部の下部組織である幹事会で検討し、推進本部で了承を得たものを素案として委員会で提示し、議論いただいて修正をするということを繰り返し、策定してまいります。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員の指摘は、重要なものを含んでいます。</p> <p>1つ目は、データの開示です。「協働と市民公益活動支援の指針」にも書いてありますが、市はたくさんのデータを持っています。それを、市民の皆さんにオープンにする「オープンデータ化」も、協働のまちづくりの基盤になります。</p> <p>2つ目は、計画策定の進め方です。宝塚市では協働のまちづくり促進委員会という会議体があり、ここでは月1回の会議を繰り返し、徹底的に議論しました。一番最初に作ったのが協働の指針でしたが、当初は市が素案を提示するという今までどおりの進め方を持ちかけたところ、委員の中から、「これは本当に協働か」「一緒に作るのであれば、委員が書くという方法もあるんじゃないか」という意</p>

	<p>見が出ました。そこから宝塚市では、素案作りのワーキンググループを作り、全ての指針や計画を市民と一緒に作るようになりました。宝塚市から協働に関する様々な冊子が出ていますが、その作成者は「宝塚市・宝塚市協働のまちづくり促進委員会」となっています。名前を書く限りは、委員会も責任を持つということです。宝塚市では、そこまで徹底的に協働を進めようという話になっています。今回も、今までの方法であれば、市が素案を出して委員会で議論して最後に市の責任で策定することになりますが、計画策定に向けた枠組みや議論する内容も決めていることは、本当に協働と言えるのか。白紙の状態から皆で作らなければならないという進め方もあるということです。今後の進め方そのものの問題提起ではないかと思うので、事務局としてもどのように進めていくのかを検討していただきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>資料として数値化されたものを見ると、高齢化率や独居老人の増加など、とても切実だと思いました。ただ、資料を読んでいて、そもそもなぜ協働のまちづくりが必要なのかをリアルにイメージしづらいところがあります。なぜ協働が必要なのか、「コミュニティが衰退しているから」というが、コミュニティが衰退しているとなぜだめなのかを説明することは難しいです。</p> <p>まちづくりと言われても、多くの人が仕事や子育てなどに追われていて参加しづらい状況です。でも、参加することによって子どもたちが安心して学べるとか、学力が上がるとか、将来摂津のまちがこうなると見えるものがあれば、地域の活動に参加する人も増えるのではないかと思います。言葉が難しく、資料を読んでいるだけではビジョンが浮かばないので、子どもでも分かるようにすると、子どもの頃から一緒に参加しやすく、安心して暮らせるまちになるのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>言葉としてはあるけれど、それが一体何なのか腑に落ちない限り、協働のまちづくりは進みません。宝塚市の協働の指針を2年間かけて作った最終盤で、ある自治会長から「協働とは何か分からなかったけれど、振り返ってみると、自分がやっていたことが協働だった」という発言がありました。「協働とは」と話を始めるのではなく、「普段やっていることが実は協働だった」という呼びかけ方もあるということです。言葉の定義から話をしていくことが多いですが、それだけではないのではないかとというのが、委員のご提言かと思っていますので、これについても検討していきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>協働の定義の中に、「対等」とあると書かれています。我々はどちらかという、行政にお願いすればやってくれるという考えがどこかにあったと思います。しかし、対等であるということは、我々も1つの義務を担うという意識を持ったうえで一緒にやっついていかないといけないし、行政側も対等であるがゆえに市民の真剣な思いについてきてもらわないといけない。そんなことが協働であると理解</p>

委員長	<p>しています。</p> <p>宝塚市内のあるまちづくり協議会の会長から「まちづくり協議会は住民自治を担う団体なので、私が会長になって、色々やらなければいけないことがあると思います、住民自治や地域主権に関する本を読んだが、腑に落ちない。「自治とは何か」について説明してほしい。」と言われました。そこで私は、地域の色々な問題を、誰かに解決してもらおうのではなくて、自分たちで解決することが「自治」ですと答えました。委員がおっしゃったように、「協働」の前に、自治会の「自治」とは何だろうという話です。市も団体自治というものを担っているわけですから、「自治って一体何だろうな」の発展形が「協働」かもしれません。</p>
委員	<p>皆さんが感じておられる思いや考えを率直にこの場でお話いただくこと自体が、この委員会を活発にしていくために大切なことだと思います。協働において、それぞれお持ちの価値観や、地域で市民と接する中で感じておられる課題などは、多様なものだと思います。それらを議論の中で出し合うことで、新たなアイデアがたくさん生まれてきます。私自身は、子どもを中心に地域の中でどういった協働を作っていくのかということを専門としています。子どもが抱えている課題や子どもの声を軸にしたときに、そこに関わっておられる市民の方の多様な声が集まることで、より良いものが作られていると感じているので、この委員会でも率直なご意見や思いを語っていただくことが、より良いものにつながるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>先ほど、事務局に対して、今後この会議をどのように進めるのかを考えていただきたいと投げかけましたが、私が進行役をしている会議の半分ほどは、最初の3回はフリーディスカッションを行っています。フリーディスカッションがその後策定する指針や計画の材料になるので、ディスカッションの内容をもとに事務局で素案をまとめてもらい、4回目以降の議論を進めていきます。</p> <p>ただし、そういう進め方に馴染んでいない方もいらっしゃいます。別の自治体でいつものやり方をしていると、ある委員から「こんな雑談大会をやっているのか」と怒られたことがあります。しかし、その方は、最終的に「皆で議論しながらまとめ上げていくというやり方があることを学んだ。地域でも皆で意見を聴きながら進めていきたい。」とおっしゃっていました。</p> <p>市役所側も委員の側も、皆で作りに上げていくのはこれまでありそうでなかった経験かもしれませんが、そういうやり方もあるというのを共有しながら進めていけたらと思います。事務局はどうしても何か準備しないといけないと思ってしまうのですが、委員は皆、豊富な経験を持たれた方ですから、最初は皆で経験を持ち寄りながら議論をすることも良いのではないかと思います。</p> <p>委員に対して、後日アンケートを取るということでしたが、内容はまだわから</p>
委員	

事務局	<p>ないですか。</p> <p>資料4の最後のページの内容を軸に考えていましたが、本日の委員の皆様からのご意見を踏まえた内容にしなければならないと考えておりますので、現時点ではお示しすることができません。「このような内容が良いのではないか」ということがありましたら、教えていただければと思います。</p>
委員	<p>何を聴かれているのかわからないと困るので、より答えやすい質問だと良いと思います。</p> <p>例えば、「まちづくり」「協働」という言葉の定義については、それぞれ何を思い浮かべるか違います。委員がどういうビジョンを持っているのか共有することも1つだとは思いますが。</p>
委員長	<p>事務局が想定しているアンケートは、今後会議を効率的に進めることを考えたものではないでしょうか。アンケートを実施する際は、委員の具体的な経験から書けるような内容を盛り込んでいただけたらと思います。</p>
委員	<p>資料4の19ページに、「地域への関心が高い層ほど、地域活動や市民活動への参加率、活動頻度、意欲が高い傾向にある」という分析があります。PTAでいうと、くじ引きで当たってしまったから役員をしたけれど、それがきっかけで地域に関心を持ち、活動に参加するようになったという方もいます。市民活動にせよ自治会にせよ、何かきっかけがあって活動に参加するようになることもあるのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>この会議では、「多くの人に協働のまちづくりに関わってもらうにはどうしたら良いか」について、委員の皆さんと議論したいと思います。</p> <p>ちなみに、茨木市では、商工会議所が協働のまちづくりの基盤を作っている、全国でも珍しい地域です。専務理事は、小・中学校区のPTA会長をされた方で、「退職後は、仕事仲間がいなくなるから、地域の仲間を作っておかないといけない。だから、PTAの活動をしていた。」という話をされていました。先ほどの委員の話と重なる部分があります。</p> <p>事務局から、地域コミュニティが薄くなってくると、孤立が課題になってくるという説明がありましたが、決して地域団体だけが孤立への対応をするわけではありません。現在、北摂において、柳瀬副委員長を中心に、NPO法人を含めた様々な方々で、孤立に対してどのような対策ができるのか議論しているところです。そのことも含めて、柳瀬副委員長からお願いします。</p>
副委員長	<p>地域課題を解決する主体は、例えば、自治会をはじめとした地域コミュニティ団体や、もしくはNPO法人などの市民公益活動団体というイメージをお持ちだと</p>

<p>委員長</p>	<p>思います。摂津市の協働のまちづくりは、それだけが主体ではなくて、市民や事業者などの多様な担い手が連携し、課題を解決していくということだと思います。</p> <p>「協働のまちづくり」と掲げてしまうと、それに向けてどうしていくのかと考えがちですが、協働というのは目的ではなく、あくまで手段や方法です。この会議で、摂津市の現状と課題を共有し、それぞれに何ができるかを考えていくことがとても大事だと考えています。先ほど委員から、行政に「こうしてほしい」「ああしてほしい」ではなく、「この場に座った責任を持って自分たちができることを考えていきましょう」という話があったことは、とても良かったと思います。</p> <p>孤独・孤立の文脈でいうと、音楽サークルやスポーツサークルでの活動など、趣味の活動として一括りにされていたものが、意図せず地域の方々の居場所になったり、つながり作りになっていることがあります。特別な思いを持った人たちだけが集まるのではなく、自分のできることや好きなことでつながり合いながら、それぞれの経験をもとに地域・社会を見ていくこともできるという点で、活発な議論ができたと思います。</p> <p>尼崎市で総合計画を作るためのワークショップを行った際、男性陣と女性陣とで話の方向性が全く違いました。男性陣は、地域防災を進めていくために、地域の防災組織をしっかりと作っていかないといけないという話になりました。それに対し、女性陣は、友達がいれば友達が助けてくれるという考えから、友達作りをしていこうという話になりました。副委員長がおっしゃったことは、組織をしっかりと作ることで協働を進めるだけではなく、人のつながり作りをしていくと、自ずと協働にもつながっていくのではないかというご指摘だと思いますので、次回以降議論をしていきたいと思います。</p> <p>私の方から2点事務局に考えていただきたいことがあります。1点目は、今回策定する計画の種類についてです。条例第10条に「基本的な計画を策定する」と書かれていますが、これは英語にすると「master plan(=抽象的ではあるが全体的な方向性を示す計画)」です。事務局から、今回の計画について、協働と市民公益活動支援の指針をアクションプランに改定すると説明されましたが、「action plan(=master planを実現する計画)」と「master plan」とでは、レベルが全く違います。条例の規定に従えば、今回策定するのは、「action plan」ではなく、「master plan」ではないでしょうか。</p> <p>2点目は、「協働」という言葉についてです。抽象的な言葉が重なると定義が難しくなりますので、「協働のまちづくり」と「協働」は一緒の意味なのか、違うものなのか、改めて考えて共有していただきたいと思います。さらにいうなら、全国的に「協働」ではなく「共創」という言葉を使う自治体が増えてきました。英語でいうと、「協働」は「collaboration」で、「共創」は「co-creation」です。強制的に仕事をさせることを「labor」、生活のためにする仕事を「work」、自発的な行動を「action」といいますが、「labor」の意味を含む「collaboration(=</p>
------------	--

	<p>協働)」にするのか、「皆で創造していく」という意味を含む「co-creation(=共創)」とするのか。前向きに進めていくなら、これからの時代は「共創」のほうがヒットするのかもしれませんが。そのあたりの書きぶりや言葉使いについて、次回以降慎重に議論していきたいと思います。</p>
(4) 今後のスケジュールについて	
委員長	<p>案件(4)の「今後のスケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料6で、協働のまちづくり推進計画策定スケジュールを示しているように、協働のまちづくり推進本部の幹事会・本部会議で作成した素案をもとに、委員会で議論していただくことを想定していましたが、本日の皆様からのご意見を踏まえ、ゼロベースで見直し、次回の会議で改めてご提示させていただきます。</p>
委員長	<p>ゼロベースでという話になったときに出てくるのが、「会議の回数を増やそうと思っても、予算がありません」という話です。そうならないように、最初から皆で議論してやっておかないといけないというのが、典型的な話です。市役所は、決まった回数で済まそうということで予算化していますが、協働の本来のあり方は市役所のマイペースでは進められませんよということで、今後考えていただければと思います。進め方そのものも見直していただくということでよろしくをお願いします。</p>
(5) その他	
委員長	<p>案件(5)のその他ということで、委員の皆様から何もなければ、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>次回以降の会議の日程及び時間帯についてです。本日は、第1回目の会議ということで、委員の委嘱もあり、平日の昼間に開催させていただいておりますが、委員の中には、平日昼間の会議への出席が難しい方もいらっしゃるかと思います。そこで、お手元に会議日程についてのアンケート用紙を配付させていただいております。会議の日程及び時間帯について、平日と土日祝の別に午前・午後・夜間の時間帯を記載しておりますので、出席が可能と思われるもの全てに丸をつけていただいて、事務局までご提出いただきたいと思います。</p> <p>アンケートの結果を踏まえ、次回以降の会議の日程を設定させていただきます。</p>
委員長	<p>それでは、第1回の会議を終了します。2回目以降は活発な議論になるので、ご意見お知恵をいただきたいと思います。</p>